



平成 26 年 2 月 4 日
海 上 保 安 庁

西之島の火山活動の状況（2月3日観測）

2月3日、羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1．噴火の状況

2ヶ所の火口には赤熱した溶岩が見えており、依然として活発な噴火活動が継続している。南側の火口からは青白色の火山ガスが放出され、北側の火口では薄褐色の噴煙を伴う断続的な噴火を確認した。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授は次のようにコメントした。「火口が赤熱し、東側の海岸から濃厚な変色海水が大量に発生していることから、高温のマグマの供給は現在も活発に継続しており、直ちに沈静化する様子は認められない。」

なお、付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

2．新たに形成された陸地の状況

流出した溶岩により新たに形成された陸地は、1月20日時点と比較して更に拡大していた。

2月3日時点での形状（暫定値）

- ・東西：約 850 m （1月20日時点 東西：約 750 m）
- ・南北：約 700 m （1月20日時点 南北：約 600 m）
- ・面積：約 0.4 平方 km、東京ドームの約 9 倍に相当
（1月20日時点 約 0.3 平方 km 東京ドームの約 7 倍）



図1 火口から立ち上がる噴煙と東側に拡大した溶岩流（2月3日撮影）



図2 活発に活動する火口（2月3日撮影）

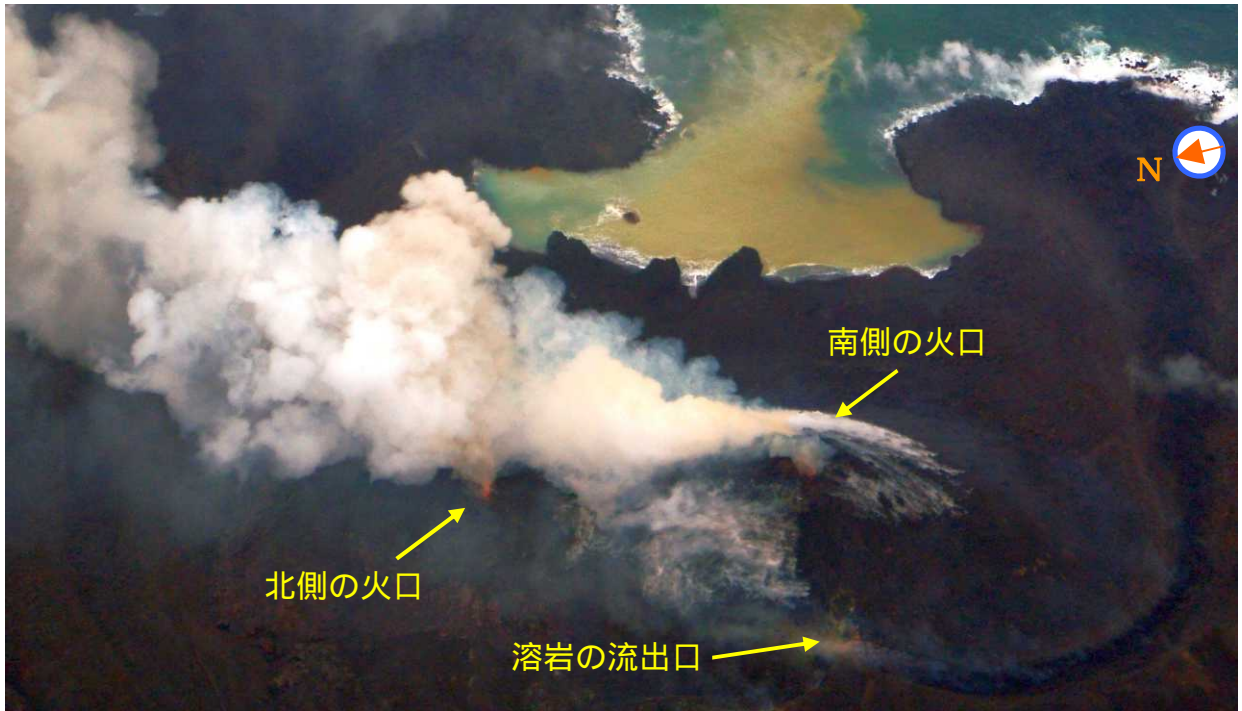


図3 赤熱した火口（2月3日撮影）

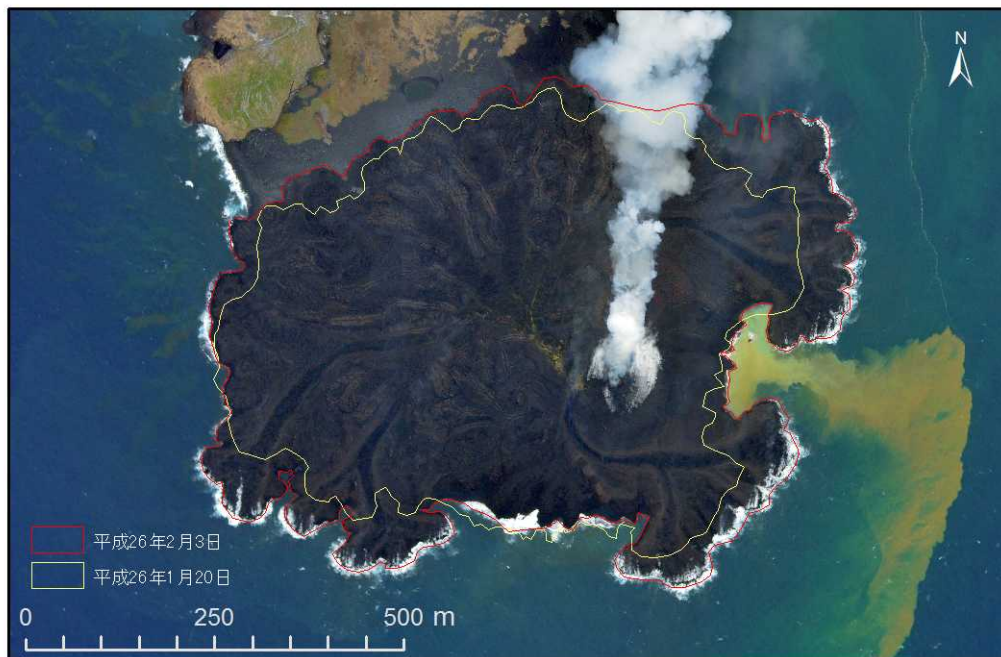


図4 新たに形成された陸地部分の様子（2月3日撮影）

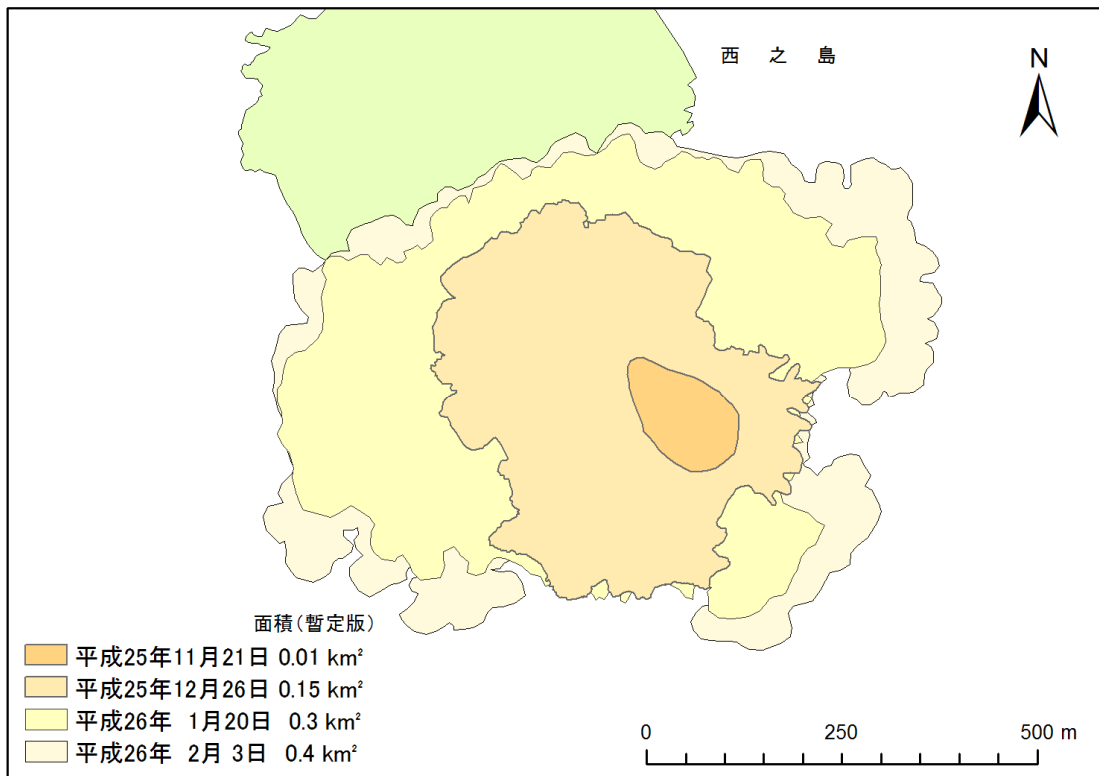


図5 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子